

## 浮田善夫さんを偲ぶ会

ただいま 紹介いただいた 理工OBの高見です。

本日は、稲門艇友会・超六会の「浮田善夫さんを偲ぶ会」に理工OBの参加を企画いただき 誠に有り難うございました。お陰様で 東京近辺の多数の者が、このような楽しい雰囲気なかで “奥様に見守られた 永遠の我等が親父・浮田監督” にお別れと感謝の挨拶をさせていただくことができました。

ここにおります柳内他4名 35年体育会ボート部に入学しましたが、新生理工学部、大久保にキャンパス移転とともに実験、実習が重視され、他学部と一緒に練習ができなくなり、理工ボート部として、36年誕生させたが2年間は部の体をなせないままであったと聞いております。

昭和38年高見達大量の1回生が入部 特に「新生早稲田大学理工学部にふさわしい」との理工学部側の強い意向もあり実質の誕生となりましたが いかな柳内達数人の4年生・5年生指導者と1年生部員での構成での部活動、“ないないづくし” で見るに見かねて網中さん、谷古さん、村松教授らの大先輩達が“はらのすわった” 浮田親分を 翌年の昭和40年1月には、送り込んでくれたのです。かたわらに“浮田さんがお兄ちゃんと呼んでいた” 山口大先輩がおられ、鈴木誠さん、黒河内さん、棚田さん、筏さんの今振り返ってみてもそうそうたる布陣でありました。

丸山さん、嶋田さん他準備していただいた方々に 改めて御礼申し上げます。

□ 私の仲人であり、親父であり、人生の師でありました浮田さんに感謝の言葉です。

オーイ たかみ 村田は元気にやっとなるかー？

近藤は、仁野はどうしてる？

藤川は元気にやっとなるかー

池田はどうしてる？ あの大笑我した林は？

お宅に伺うと あの 笑顔、はりのある声で いつも 次から次へと聞いてこられました。

私を含め 皆の成長を とても楽しみにしておられ 「うんうん。そうか、そりゃよかった、たいしたもんだ」と ほんとうにうれしそうでした。

□ 今日も 存命10人中7人・一番多く来てくれている43年卒の連中にはひとしおでした。

浮田さんがみえた時の新入部員でして、私達1回生・42年卒に抑えられ44年卒の40人を超す奔放な個性集団にはさまれていたのですが、一途に葛藤しているさまをよくみておられて機会あるごとに「腹の底からの暖かくユーモアたっぷりの楽しい語録で」声をかけてくれていたのです。

そして、今日参集してくれている44年、45年、46年になると、次から次へと何の遠慮もなくお宅に伺い飲み食いし、荒尾様の奥様までしょっちゅう動員して対応いただいたとお聞きしておりました。

ボート部関連・大學も含めた対外的なことは勿論ですが、部員一人・一人についても「ボートも学業成績も中途半端と言う酷いやつ」からはじまり、「就職どうしよう」、「卒業前自分を見つめなおしたい」等々“いざ人生の重要な選択に迷ったとき”に相談にあがると、実の父親以上に親身になって、聞き、行動してくれました。

短期で海外自己研修名目で資金が必要なやつには、「普通免許で大型生コン運転で稼がしてもらおう」、「会社の社員になりすまして、高額な夜間手当付の工事現場のアルバイトなどさせてもらっていました。」

こうゆう私も卒業したら、浅野運輸の生コン試験係りからスタートと思っていたら、ある日学生服を着て付いて来いと言われ、清水建設の受付にあらわれたのは、清水御3家の慶応出の御曹司でした。

- しかし、一昨年の早慶戦にもおみえにならないので、心配でしたが怖くて電話できませんでした。思い切って昨年50周年記念誌の原稿依頼、校正打ち合わせ、出来上がった記念誌の御届けで数回お宅に伺いました。
- 最近足が弱ってな一 出歩くのもまもらなくなってしまうよ。11月3日は残念だけどいけないわ・・・といつも最初だけ言葉をかわして・・・俺 休むから、ゆっくりしてってくれ・・・あとは、奥様と浮田さんのからだのこと、私や奥様の健康のこと、昔話でした。私が何度も入院したせいもあり、それがお会いした最期になってしまいました。
- お陰さまで、この年になっても 浮田親父を見習い「若い学生達の成長を見守り続けること」をライフワークにしております。これからも ずっとあの笑顔で声をかけてください。長い間 有り難うございました。